



iOS 端末用

ASR-L251G Demo App

操作説明書

注意:本マニュアルでは iOS 端末用アプリケーションについて説明していますが、Android 端末用アプリケーションの操作方法もこちらと類似しているため、Android 端末用アプリケーションをご利用の際も本マニュアルを参照してください。

Copyright © Asterisk Inc. All Rights Reserved.

AsReader は株式会社アスタリスクの登録商標です。

iTunes は Apple Inc.の登録商標です。

iOS 商標は米国 Cisco のライセンスに基づき使用されています。

Android は Google LLC の登録商標です。

本書の内容に関しては、仕様改良などにより予告無しに変更することがあります。

目次

はじめに	1
ASR-L251G Demo App について	2
1. 画面説明	3
2. 接続方法	4
3. 使用方法	5
3-1 RF タグのインベントリ	5
3-2 温度センサー付き RFID タグの読取(ベータ版)	8
3-3 RF タグの各種設定	9
3-3-1 Inventory	9
3-3-2 RFID Option	11
3-3-3 Read Memory	15
3-3-4 Write Memory	18
3-3-5 Lock Memory	20
3-3-6 Mask の設定	23
3-4 1D・2D コードの読取	28
3-5 1D・2D コード読取の各種設定	30
3-5-1 Barcode Scan	30
3-5-2 Barcode Option	32
3-6 読み取ったデータの取出	34
3-7 モードインジケータテストボタン	35

はじめに

本書では ASR-L251G Demo App の正しい操作方法について記述しています。ご使用前に、必ずお読みください。この操作説明書に関するご意見、ご質問は下記へご連絡ください。

問い合わせ先

株式会社 アスタリスク サポートセクション

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-6-16 新大阪大日ビル 201

TEL: 050-5536-8733

<https://asreader.jp>

ASR-L251G Demo App について

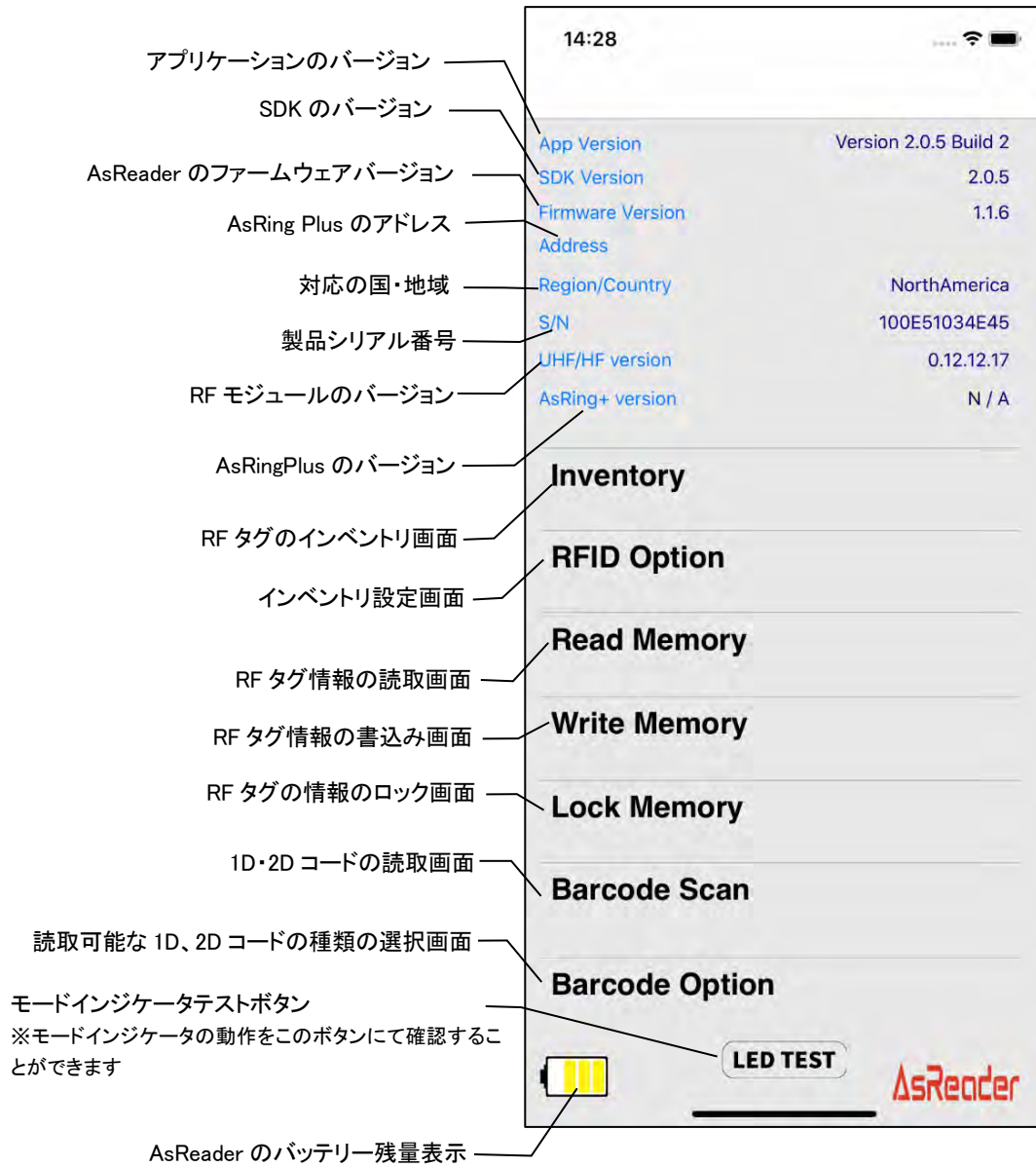
ASR-L251G Demo App(以下アプリケーションと表記)は弊社製品 ASR-L251G(以下 AsReader と表記)をご使用の際に利用できるアプリケーションです。

アプリケーションは AppStore からダウンロードしてご利用ください。ダウンロードする際は、AppStore で ASR-L251G App を検索するか、下記 QR コードで AppStore にアクセスしてください。



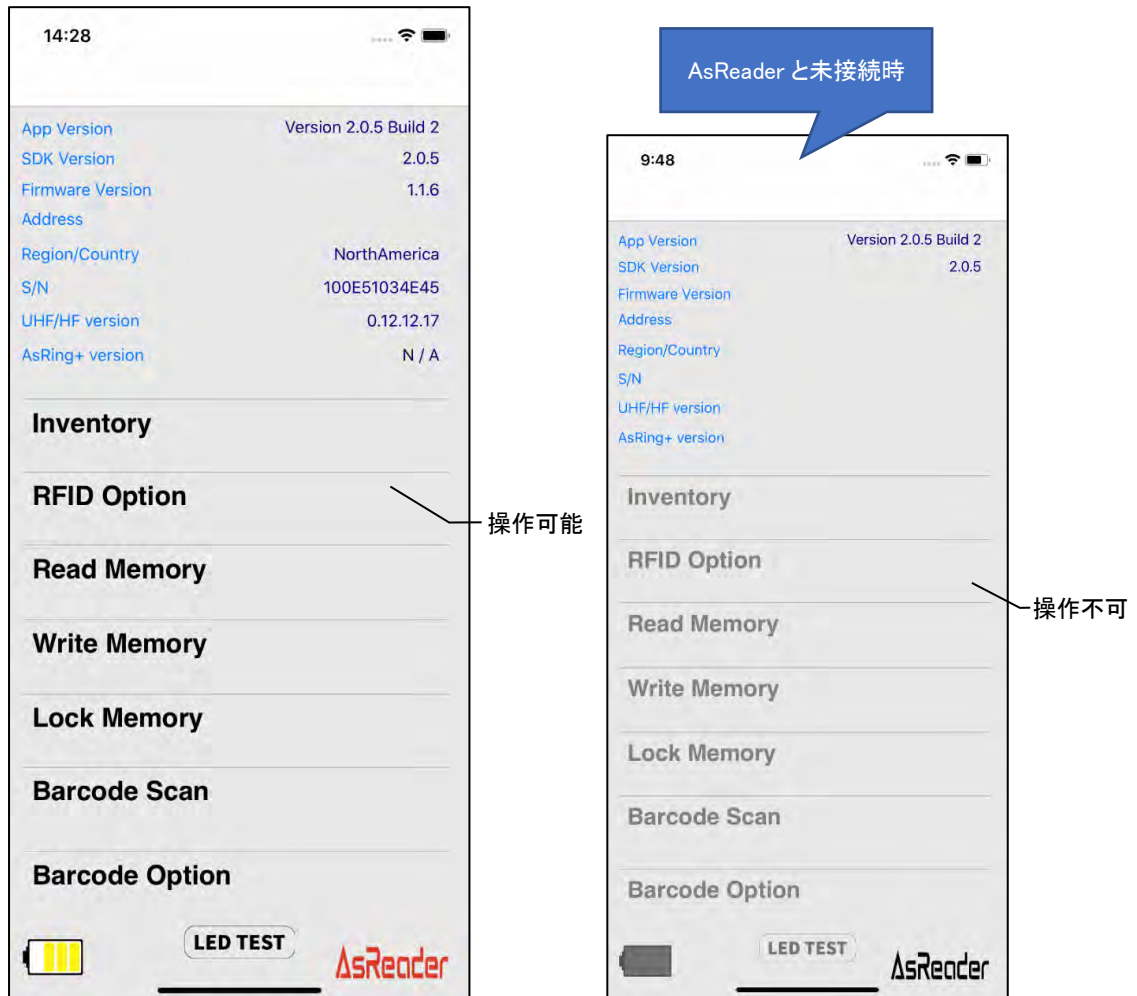
注:ASR-L251G App は ASR-L251G の専用アプリです。ASR-R250G を使う場合、R250G の Demo App (AsReaderGun)を使ってください。

1. 画面説明



2. 接続方法

スマートデバイスを AsReader にセットすると、AsReader の Buzzer 音が鳴り、AsReader の LED インジケータが点滅状態から点灯状態に変わります (Power インジケータ)。アプリケーションを起動し、接続が完了すると、下記の画面が表示されます。※未接続の状態ではアプリケーションの操作ができません。接続できない場合は、AsReader 本体の取扱説明書を参照してください。



3. 使用方法

3-1 RF タグのインベントリ

① 左下の画面で「Inventory」をタップし、次に右下の画面に表示されている「Inventory」をタップして読取を行います。AsReader のトリガーを押しても読取ができます。



② 一旦、「Inventory」をタップすると、設定された条件を満たすまで、または「Stop」をタップするまで継続して読取が実施されます。AsReader のトリガーを押している間も、読取が継続して実施されます。

※インベントリ中は「Inventory」ボタンが「Stop」ボタンに変わります。

③ 読取を行うと、読み取った RF タグの一覧が画面に表示されます。また、読み取ったデータは CSV ファイルまたは Excel ファイルの形式で PC に出力できます。※出力方法は「3-6 読み取ったデータの取出」を参照してください。

読み取った RF タグの一覧表示

読み取った RF タグの一覧表示

11:32 Wi-Fi 電池

< Back Inventory Export

「Report TID」を ON にした
場合の TID 情報表示

読み取ったデータの取出
(CSV または Excel)

同一 RF タグの読取回数

「Report RSSI」を ON にした
場合の電波強度情報表示

Power Gain 30.0 dB

Display PC

Continuous Mode

Report RSSI

Report TID : (len:4 word)

Operation Time 0 ms

Inventory Session S0

Session Flag A or B

1 秒間に読み取った
RF タグの枚数

読み取ったユニークな RF
タグの枚数
(同じ RF タグを重複して読
み取った場合にそれを 1
回とカウントした枚数)

RF タグ一覧表示の消去

マスクの選択
詳細に関しては「3-3-6 Mask
の設定」を参照してください。

読み取った RF タグの合計枚数
(同じ RF タグの重複読取も全て
カウントした枚数)

温度センサー付き RFID タグ
の読取ボタン

この画面に表示される設定
項目の表示/非表示の選択

0.00 tps

Count

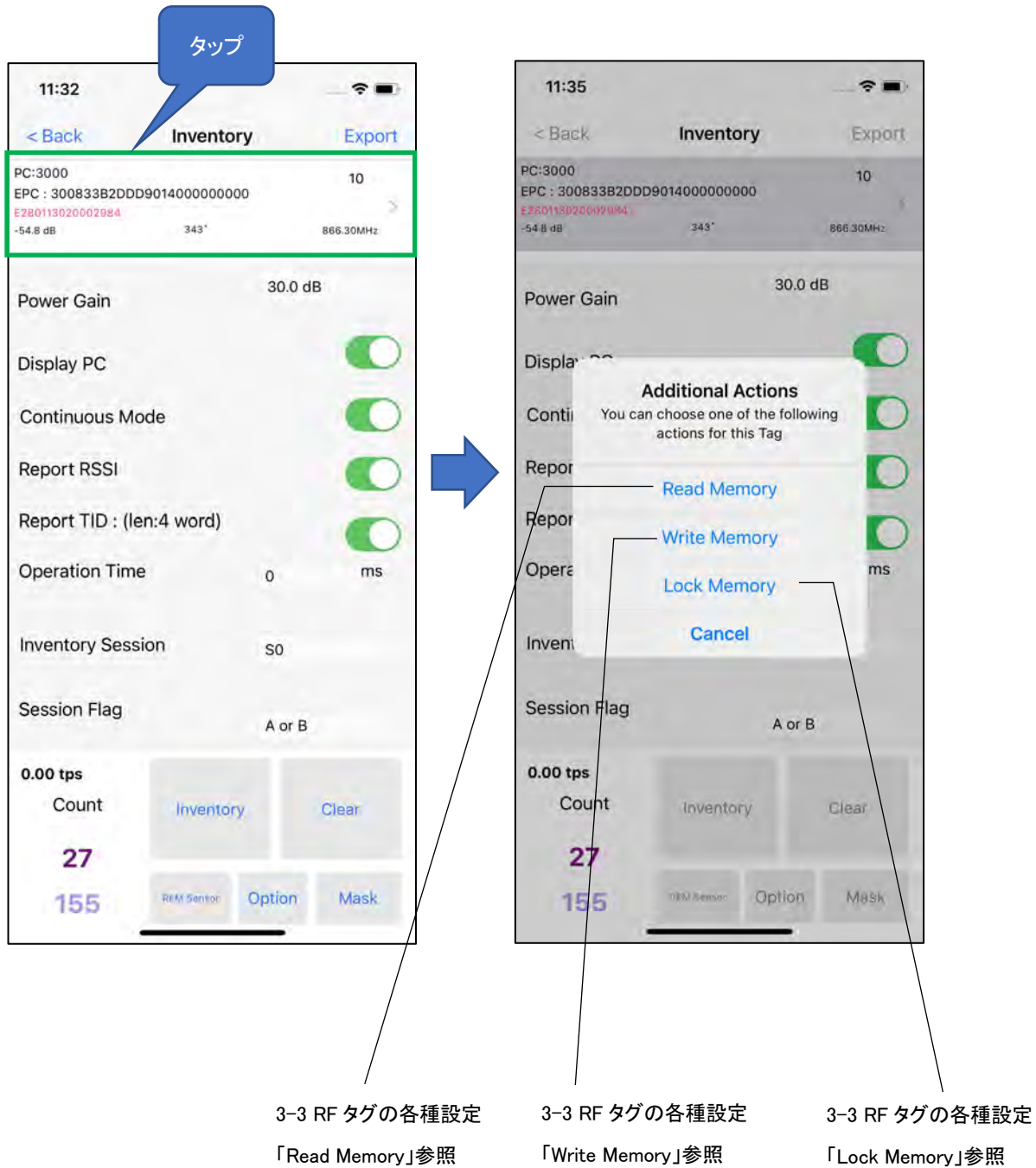
27

155

Inventory Clear

RFM Sensor Option Mask

- ④ 一覧に表示された RF タグをタップすると、読取／書込み／ロックの処理を行うことができます。詳細については、「3-3 RF タグの各種設定」を参照してください。



3-2 温度センサー付き RFID タグの読取(ベータ版)

- ① 「Inventory」画面下の「RFM Sensor」ボタンをタップして、温度センサー付き RFID タグの読取を行います。
- ② 読取中は「Inventory」ボタンが「Stop」ボタンに変わります。「Stop」をタップするまで継続して読取が実施されます。

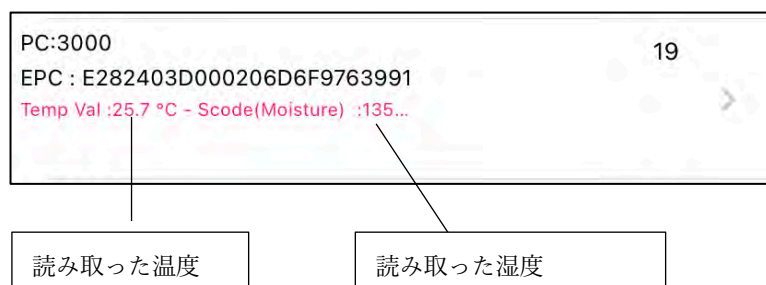
現在対応している温度センサー付き RFID タグの型番は下記の通りです。

AXZON RFM3200-AFR

AXZON RFM2100-AFR

AXZON RFM2121-AFR

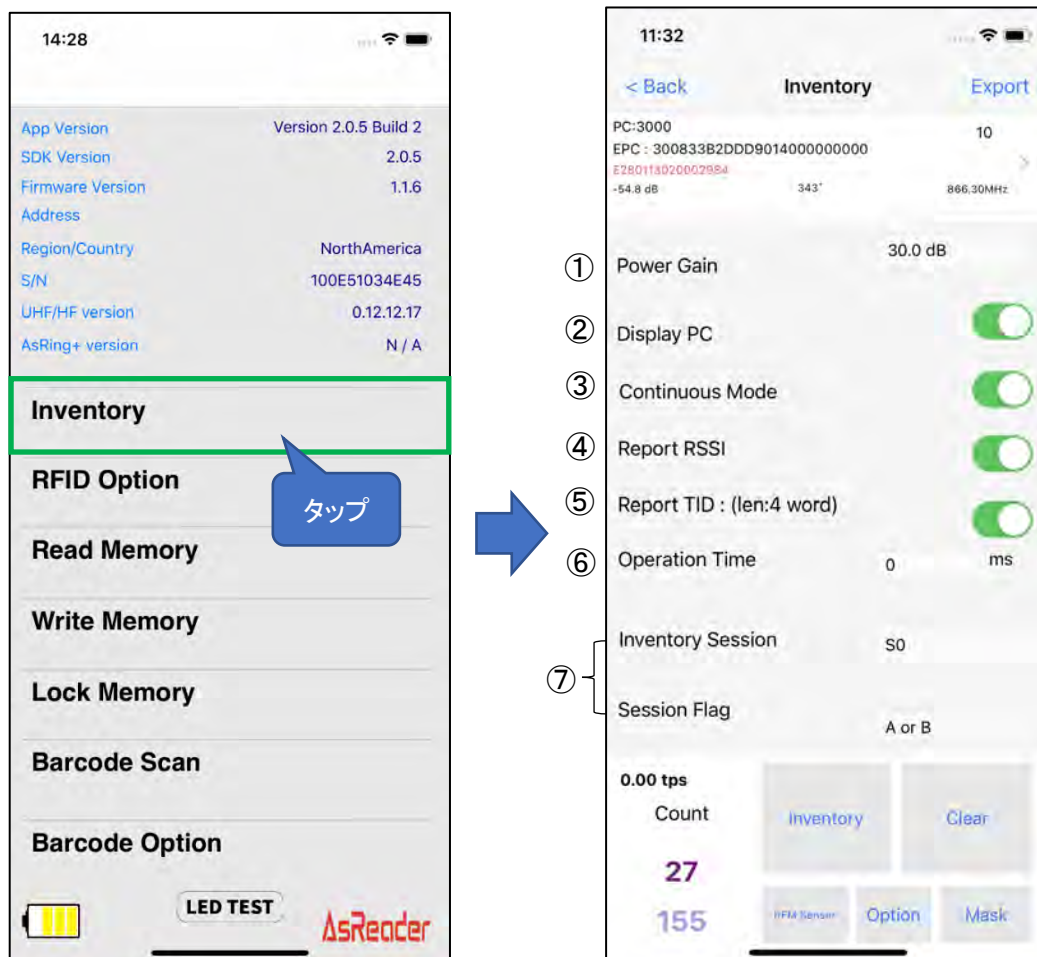
* 現在、本機能はベータ版として公開しています。



3-3 RF タグの各種設定

3-3-1 Inventory

左下の画面の「Inventory」をタップすると、RF タグの読取操作以外に、読取の条件を設定することができます。



① Power Gain

AsReader の電波出力を変更できます。

変更の範囲: 5dBm~30dBm

一般的に設定値を大きくすることで読取距離が長くなりますが、消費電力が大きくなるため、バッテリーの使用時間が短くなります。RF タグとの距離が短く、その数が多いときは設定値を 25dBm 程度にすると、多くの場合、読取速度が最適になります。

② Display PC

この機能を ON にすると読み取った RF タグデータの PC(Protocol Control)の値を表示します。

③ Continuous Mode

連続読取の設定ができます。ON にすると、「Inventory」をタップしてから「Stop」をタップするまで、または AsReader のトリガーを押している間、連続して RF タグの読取を行います。

④ Report RSSI

この機能を ON にするとインベントリ時に RF タグからの電波強度を表示します。

⑤ Report TID

この機能を ON にしてインベントリすると、読み取った RF タグの TID 情報を表示します。ON にするとともに表示させる TID データの長さ(ワード数)も指定する必要があります。

※この機能を ON にすると、インベントリ速度が遅くなります。

⑥ Operation Time

読取を開始してから終了するまでの時間を設定します。設定した時間が経過すると、操作状態に関係なく、読取は終了します。

※Continuous Mode が ON の場合のみ適用できます。

⑦ Inventory Session 及び Session Flag

「Inventory Session」及び「Session Flag」を合わせて設定することで RF タグの応答時間を調整できます。(応答時間は RF タグの仕様によって異なります)

インベントリ対象の RF タグの枚数により、下表の値を目安として設定してください。

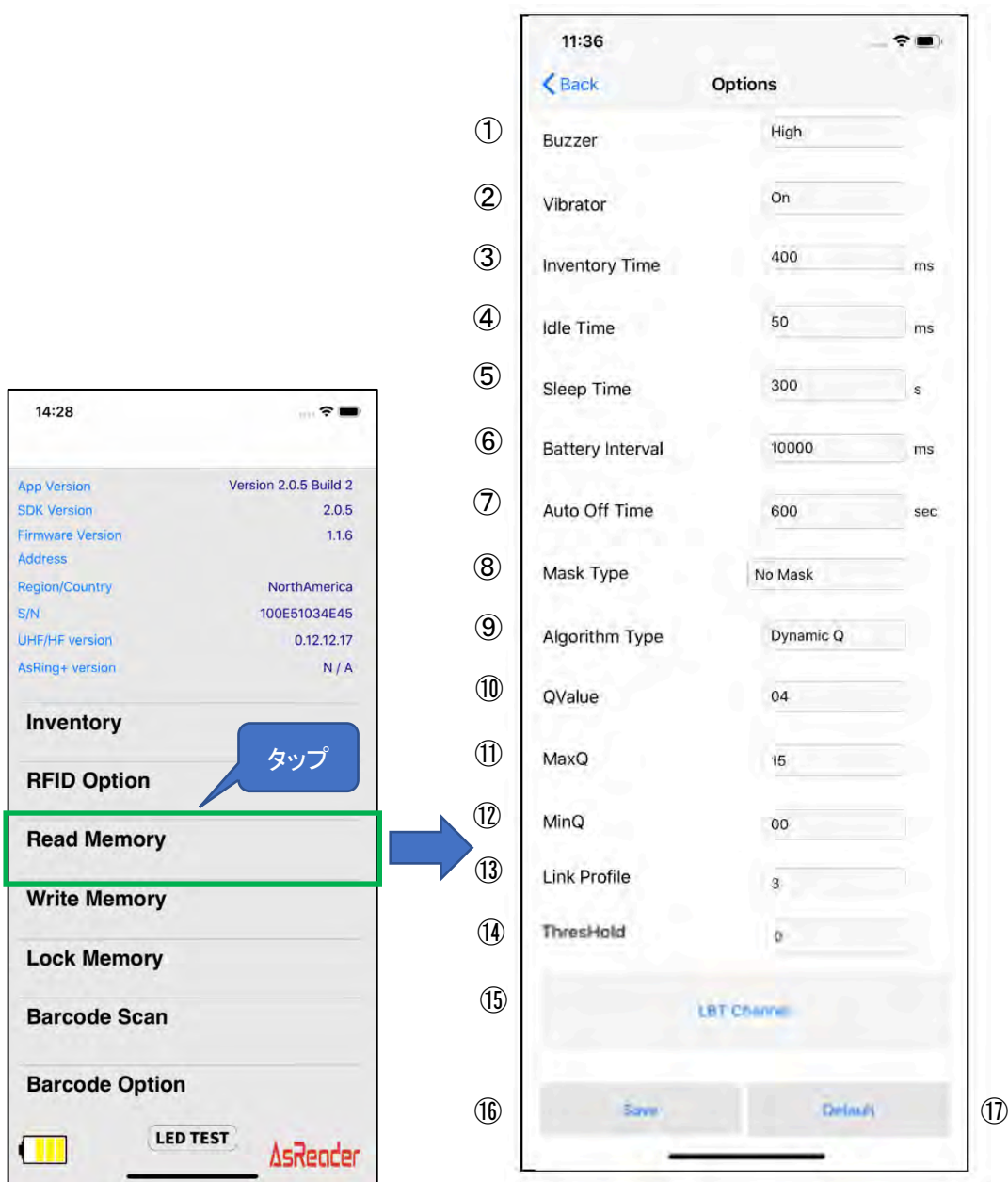
Session Flag	S0	S1	S2/S3
A only	読み取った RF タグは電波を受け終わると即座に再読取可能状態になります。読取対象の RF タグが 100 枚以内の場合に推奨します。	読み取った RF タグは 0.5 ~5 秒間は再読取ができません。読取対象の RF タグが 400 枚以内の場合に推奨します。	読み取った RF タグは電波を受け終わってから 2~60 秒間は再読取ができません。読取対象の RF タグが 400 枚を上回った場合に推奨します。
B only	初期状態の RF タグは読取できません。S2/S3 などで読み取った RF タグを即座に再度読取するときに使います。	S0 と同じ	S0 と同じ
A or B	同じ RF タグを繰り返し読み取りが必要な場合に使用します。読取速度は S0 > S1 > S2/S3 になります。	S0 と同じ	S0 と同じ

※S2 と S3 は同じ仕様ですが相互の関連性がありません。複数のリーダーで運用する場合に使い分けてください。

※以上の各項目の設定はアプリケーションに保存されます。

3-3-2 RFID Option

左下の画面の「RFID Option」をタップすると、RF タグの読取条件を設定することができます。



① Buzzer

Buzzer 音の ON/OFF と音量の設定ができます。Buzzer 音が ON の場合、次のタイミングで設定した音量の Buzzer 音が鳴ります：AsReader の電源 ON/OFF 時、スマートデバイスと AsReader の接続時、RF タグまたは 1D・2D コードの読取時。

② Vibrator

振動の ON/OFF を設定できます。振動が ON の場合、次のタイミングで振動します： AsReader 電源 ON/OFF 時、スマートデバイスと AsReader の接続時、RF タグまたは 1D・2D コードの読取時。

③ Inventory Time

RF タグ読取時の電波の送信時間を設定できます。Inventory Time を長くすると、条件により読取が早くなりますが、消費電力が大きくなるため、バッテリーの使用時間が短くなります。

※Inventory Time は各国の電波法令により下表の範囲での設定が義務付けられています。ご利用の際は、この範囲内で設定を行ってください。

④ Idle Time

RF タグ読取時の電波の送信休止時間を設定できます。

※Idle Time は各国の電波法令により下表の範囲での設定が義務付けられています。ご利用の際は、この範囲内で設定を行ってください。

規格	Inventory Time	Idle Time
日本 電波法	4000ms 以下	50ms 以上
米国 FCC	400ms 以下	20ms 以上
EU CE	4000ms 以下	100ms 以上

⑤ Sleep Time

AsReader がスリープになるまでの時間を設定できます。

⑥ Battery Interval Time

AsReader からアプリケーションにバッテリー残量情報を送る間隔を設定できます。

⑦ Auto Off Time

AsReader の電源が自動で OFF になるまでの時間を設定することができます。

iOS 端末をご使用の場合、アプリケーションが AsReader と接続していない状態での電源 OFF までの時間。Android 端末をご使用の場合、スリープになってから電源 OFF までの時間。

⑧ Mask Type

「Mask Type」を選択することで、マスクをかけた対象外の RF タグを読み取らないようにできます。

⑨ Algorithm Type

アンチコリジョン処理で使用されるスロット数(=2 の Q 乗)の Q の値を固定するか、変動させるかを選択します。

Fixed Q	Q 値を固定して読み取る
Dynamic Q	Q 値を指定された範囲で変動させながら読み取る

⑩ QValue

上記⑨で「Fixed Q」を選択した場合の Q の値を指定します。

⑪ MaxQ

上記⑨で「Dynamic Q」を選択した場合の Q の変動範囲の最大値を指定します。

⑫ MinQ

上記⑨で「Dynamic Q」を選択した場合の Q の変動範囲の最小値を指定します。

⑬ Link Profile

RFID モジュールの設定を変更します。設定値については以下をご確認ください。

0	読み取り速度は遅いが読み取り感度が高い。
1	読取距離が長い。広い範囲での棚卸に最適。
2	1 と同様。(EU 版向け)
3	読取速度が速い。狭い範囲での棚卸に最適。

設定は変更されるまで AsReader に保存されます。

⑭ ThresHold

通常は初期値「50」から変更しないでください。

⑮ LBT Channel ボタン

読取時に使用する周波数のチャンネルを選択します。

※Region が Japan の時のみ表示されます。

⑯ Save ボタン

上記各設定を行ってからこの「Save」をタップすると設定が保存されます。設定後は必ずこの操作を行ってください。①～⑫、⑮と⑯の保存先はアプリケーション、⑬と⑭の保存先は AsReader です。

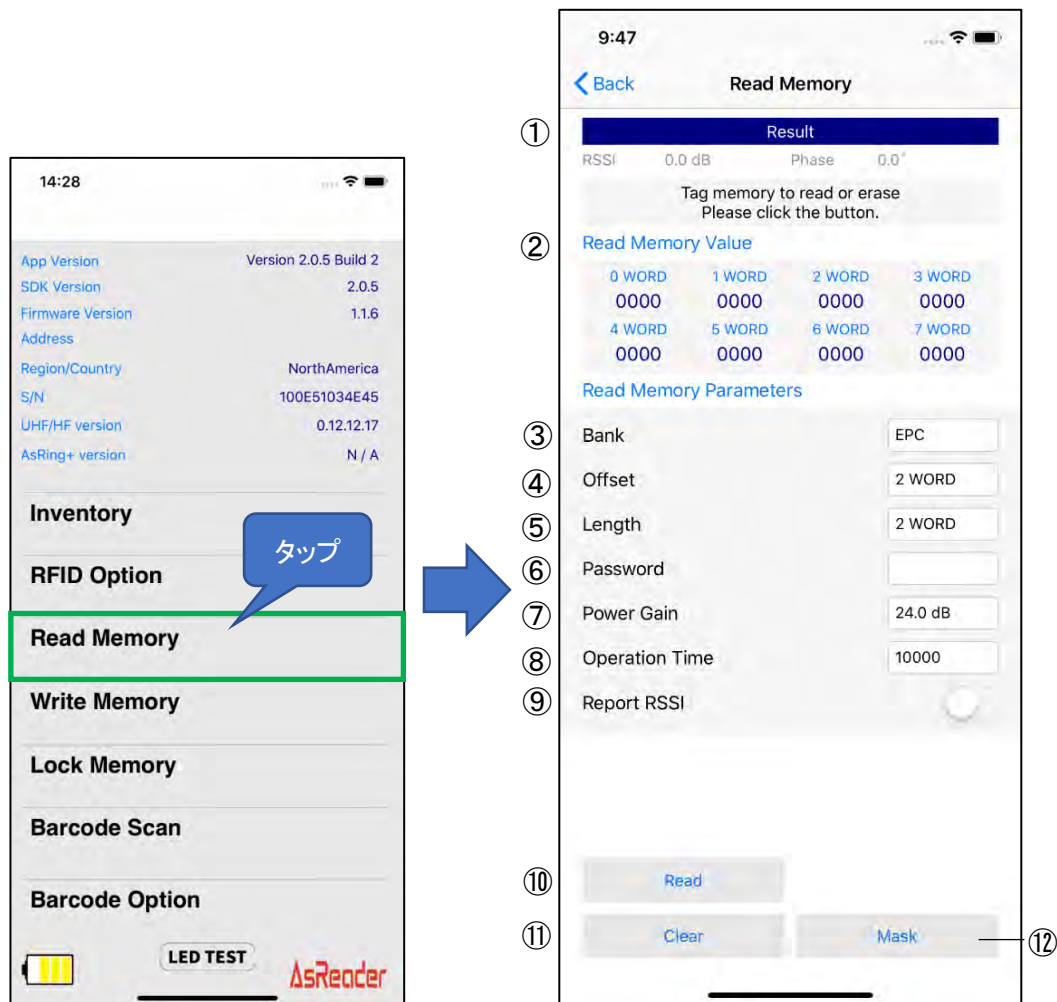
⑰ Default ボタン

タップするとデフォルト設定に戻ります。

※動作条件により、AsReader からの反応が遅れ、画面が正しく表示されない場合があります。その場合は再度「Save」または「Default」の設定を行ってください。

3-3-3 Read Memory

左下の画面の「Read Memory」をタップすると、RF タグに対して、読取の処理を行うことができます。



① Result

RF タグを読み取った結果が「Result」に表示されます。

② Read Memory Value

読み取った RF タグの各 WORD 情報が「Read Memory Value」に表示されます。RF タグの読取は「Read Memory Parameters」の各項目（以下の③～⑨を参照）に設定した数値に基づいて実行されます。

③ Bank

読取を実施するメモリバンク(領域)を下記の 4 つの領域から選択することができます。RF タグを読み取ると、指定したメモリバンクの WORD 情報が「Read Memory Value」に表示されます。

- ・Reserved 領域 : キルパスワード及びアクセスパスワード
- ・EPC 領域 : 個体識別番号
- ・TID 領域 : RF タグの種類を表す固有情報
- ・User 領域 : ユーザー定義データ用

④ Offset

WORD 表示の開始位置を指定することができます。選択の範囲は「0 WORD」から「15 WORD」までです。RF タグを読み取ると、WORD 情報が設定した開始位置から「Read Memory Value」に表示されます。

⑤ Length

WORD 表示の長さを指定することができます。選択の範囲は「0 WORD」から「15 WORD」までです。RF タグを読み取ると、指定した長さの WORD 情報を「Read Memory Value」に表示します。

⑥ Password

アクセスパスワードを入力します。アクセスパスワードが設定され、かつ、そのアクセスパスワードがロックされている RF タグの Reserved 領域を読み取る場合、アクセスパスワードを入力する必要があります。

Reserved 領域以外を読み取る場合は使用しません。

⑦ Power Gain

AsReader の電波出力を変更できます。設定はアプリケーションに保存されます。

⑧ Operation Time

「Read」処理の実行時間を設定します。設定はアプリケーションに保存されます。

⑨ Report RSSI

設定を ON にすると読取時に RF タグからの電波強度を表示します。設定はアプリケーションに保存されます。

⑩ Read ボタン

タップすると RF タグの読取が実施されます。読取が成功すると、「Result」欄の下のエリアに「Success」と表示されます。

⑪ Clear ボタン

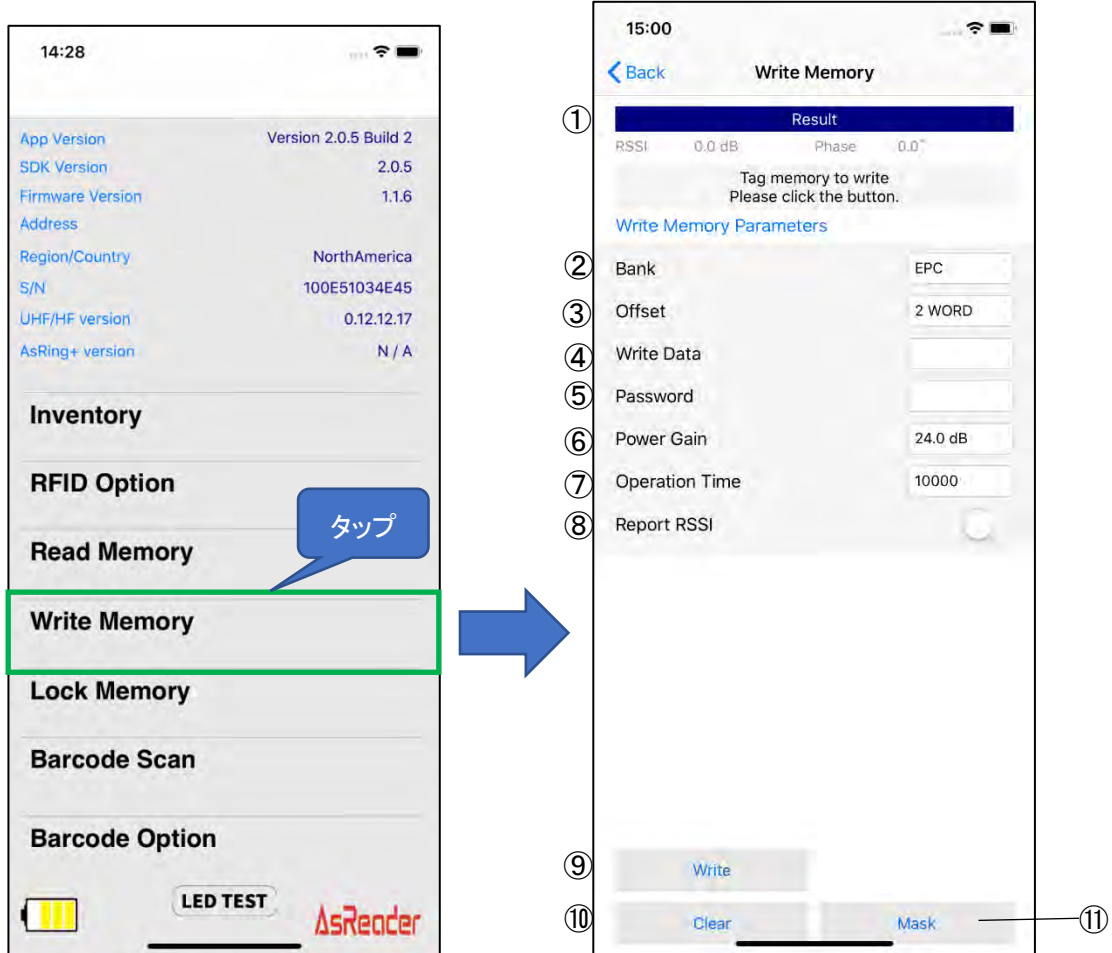
タップすると「Result」欄に表示されている RF タグの情報が消去されます。

⑫ Mask ボタン

「RFID Option」の「Mask Type」を「Selection Mask」に設定した場合、この「Mask」ボタンをタップすると、「Mask Item」の設定を行うことができます。設定方法に関しては「3-2-6 Mask の設定」を参照してください。設定はアプリケーションに保存されます。

3-3-4 Write Memory

左下の画面の「Write Memory」をタップすると、RF タグに対して、書込み処理を行うことができます。



① Result

RF タグを読み込んだ結果が「Result」に表示されます。

② Bank

書込みを実施するメモリバンク(領域)を下記の 4 つの領域から選択することができます。

- ・Reserved 領域 : キルパスワード及びアクセスパスワード
- ・EPC 領域: 個体識別番号
- ・TID 領域: RF タグの種類を表す固有情報(書込み不可)
- ・User 領域: ユーザー定義データ用

③ Offset

対象メモリバンクの書込み開始位置を指定することができます。選択範囲は「0 WORD」から「15 WORD」までです。

④ Write Data

書込み内容を入力します。書込みの桁数は 4 桁、8 桁、12 桁など 4 の倍数にする必要があります。

⑤ Password

アクセスパスワードが設定され、書込み対象の領域がロックされた RF タグに書込みを行う場合、アクセスパスワードを入力する必要があります。

⑥ Power Gain

AsReader の電波出力を変更できます。設定はアプリケーションに保存されます。

⑦ Operation Time

「Write」処理の実行時間を設定します。値を設定しないことを推奨します。設定はアプリケーションに保存されます。

⑧ Report RSSI

設定を ON にすると書込み時に RF タグからの電波強度を表示します。設定はアプリケーションに保存されます。

⑨ Write ボタン

タップすると RF タグへの書込みが実施されます。書込みが成功すると、「Result」欄の下のエリアに「Success」と表示されます。

⑩ Clear ボタン

タップすると「Result」欄に表示されている RF タグの情報が消去されます。

⑪ Mask ボタン

「RFID Option」の「Mask Type」を「Selection Mask」に設定した場合、この「Mask」ボタンをタップすると、「Mask Item」の設定を行うことができます。設定方法に関しては「3-2-6 Mask の設定」を参照してください。設定はアプリケーションに保存されます。

3-3-5 Lock Memory

左下の画面の「Lock Memory」をタップすると、RF タグに対して、ロックやキルなどの処理を行うことができます。

RF タグをロックする

RF タグを永久的にロックする

アクセスパスワードを設定する

表示中の RF タグ情報を消去す

マスクを設定する (設定方法に関しては「3-3-6 Mask の設定」を参照してください。)

キルパスワードを設定する

RF タグを読めなくする

RF タグをロック解除する

① Result

RF タグを読み込んだ結果が「Result」に表示されます。

② Kill Password

設定されたキルパスワードに対して、「Lock」、「Unlock」、「Permalock」の操作を行う場合に ON にする必要があります。

※キルパスワードを設定する場合は「Set Kill Pwd」をタップするとキルパスワードの入力エリアが表示されます。

③ Access Password

設定されたアクセスパスワードに対して、「Lock」、「Unlock」、「Permalock」の操作を行う場合に ON にする必要があります。

※アクセスパスワードを設定する場合は「Set Access Pwd」をタップするとアクセスパスワードの入力エリアが表示されます。アクセスパスワードは下記の場合に必要となります。

- ・アクセスパスワード、キルパスワードやメモリバンクのロック、ロック解除や恒久ロックを行う時
- ・ロックされたメモリバンクの書込みを実施する時
- ・ロックされた Reserved 領域の情報を読取する時

④ EPC

ON にするとこの領域が「Lock」、「Unlock」または「Permalock」の対象となります。

⑤ TID

ON にするとこの領域が「Lock」、「Unlock」または「Permalock」の対象となります。

※一般的な RF タグは出荷時に Permalock されています。

⑥ User

ON にするとこの領域が「Lock」、「Unlock」または「Permalock」の対象となります。

⑦ Password

アクセスパスワードを設定された RF タグに対して、「Lock」、「Unlock」、「Permalock」を行う場合、ここに「Access Password」を入力します。

⑧ Power Gain

AsReader の電波出力を変更できます。設定はアプリケーションに保存されます。

⑨ Operation Time

「Lock」や「Unlock」などの処理の実行時間を設定します。画面の処理時間を設定します。設定はアプリケーションに保存されます。

⑩ Report RSSI

設定を ON にすると「Lock」「Unlock」などを行うときに RF タグからの電波強度を表示します。設定はアプリケーションに保存されます。

※「Lock」、「Unlock」、「Permalock」、「Kill」、「Set Access Pwd」、「Set Kill Pwd」の各操作が成功すると、「Result」欄の下のエリアに「Success」と表示されます。

3-3-6 Mask の設定

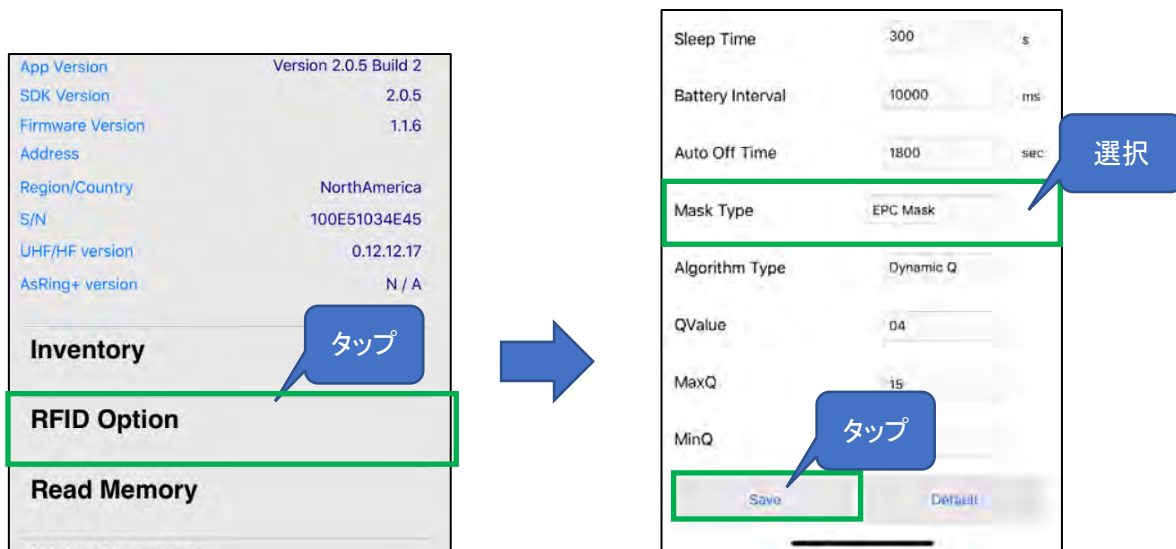
「Mask」は特定の RF タグを絞り込んで読み取るときに使用するフィルタリング機能です。「RFID Option」の「Mask Type」で、「EPC Mask」または「Selection Mask」を選択し、「Inventory」画面の「Mask」ボタンで詳細な設定を行うことができます。「Selection Mask」を選択した場合は、さらに「Read Memory」、「Write Memory」、「Lock Memory」画面の「Mask」ボタンで設定を行うこともできます。

① EPC Mask

まずは「RFID Option」の「Mask Type」で「EPC Mask」を選択します。保存してから「Inventory」画面で「Mask」ボタンをタップし、表示された画面の右上の「+」をタップします。「Offset」にマスクをかける始める位置のビット数※1、「Mask」にマスクをかけたい数値※2、「Length」にマスクをかけ終える位置のビット数を入力し、「Done」をタップします。表示された画面の「Save」ボタンをタップします。「Not Matching」が OFF の状態では、設定された条件に適合する RF タグがインベントリされます。「Not Matching」を ON にすると、設定された条件以外の RF タグがインベントリされます。設定はアプリケーションに保存されます。

※1 CRC 部分の 16bit が含まれているため、デフォルト設定は 16bit となっています。0bit の選択はできませんが、プログラム上の最小値を下回るため保存できません。

※2 Offset を 16bit に設定した場合、PC 部からの数値を設定する必要があります。

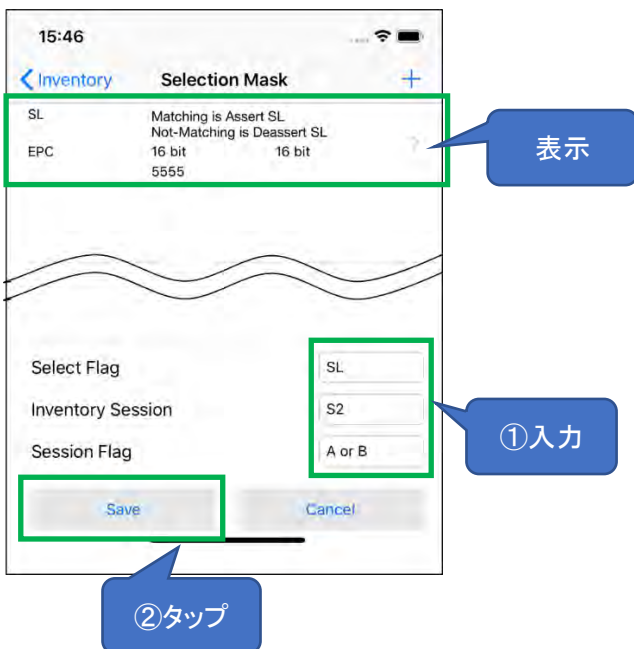
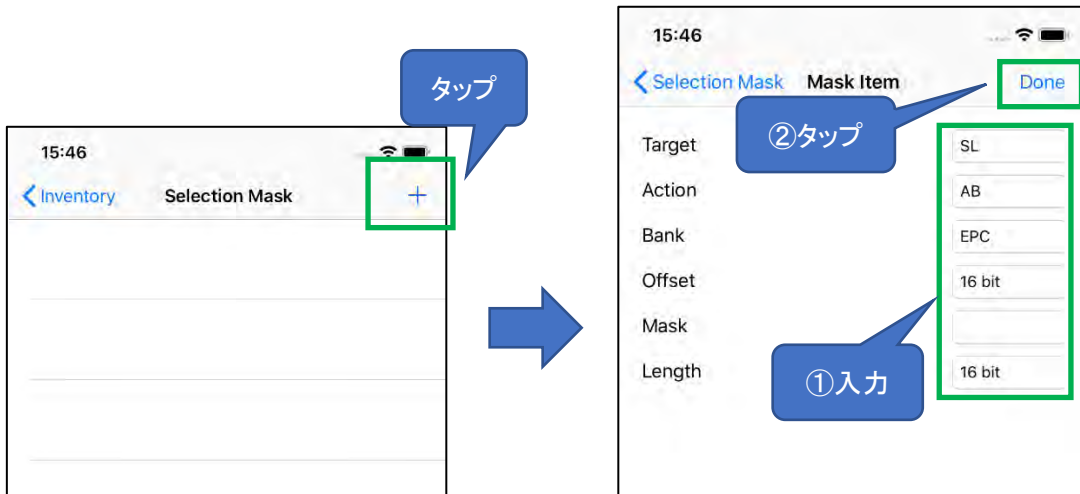




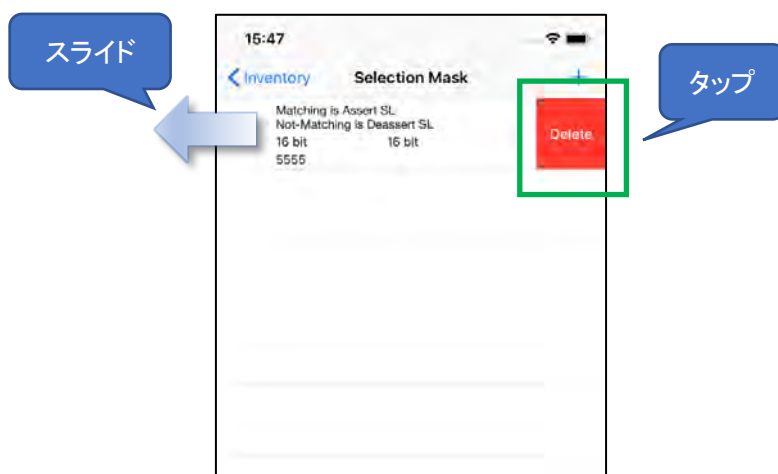
② Selection Mask

まず「RFID Option」の「Mask Type」で「Selection Mask」を選択します。保存してから「Inventory」画面で「Mask」ボタンをタップし、表示された画面の右上の「+」をタップします。表示された画面で「Target」「Action」「Bank」「Offset」「Mask」「Length」のセレクトコマンドを設定することができます。設定したら「Done」をタップして「Selection Mask」の画面に戻します。「Selection Mask」の画面には設定された条件の一覧が表示されます。「Save」をタップしたら、この条件が保存され、インベントリ時に適用されます。また、「Selection Mask」画面の下の方で「Select Flag」、「Inventory Session」、「Session Flag」のクリエコマンドを設定することができます。設定はアプリケーションに保存されません。



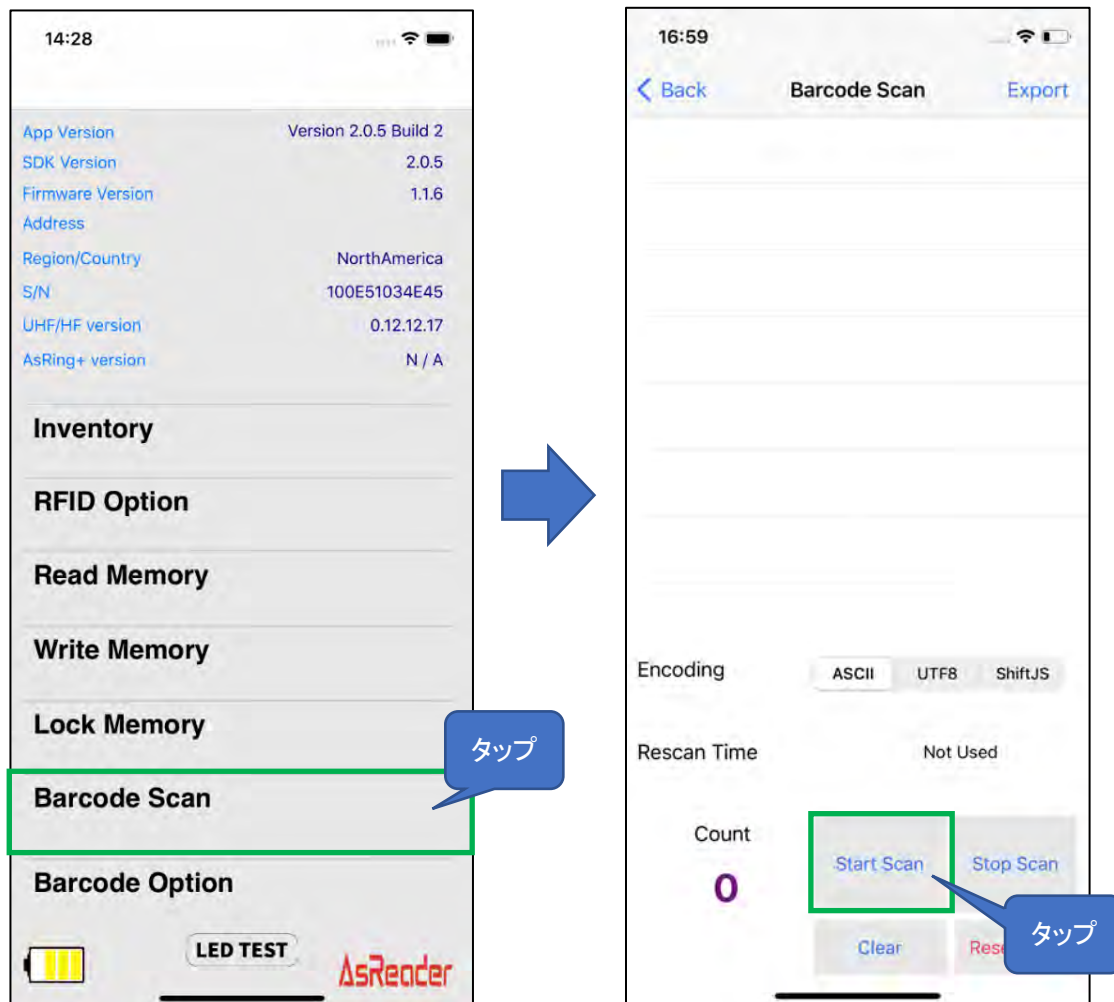


※設定した条件を削除するときは、左側へスライドして、表示される「Delete」をタップしてください。



3-4 1D・2D コードの読取

① 左下の画面の「Barcode Scan」をタップし、次に右下の画面に表示されている「Start Scan」をタップして 1D・2D コードの読取を行います。AsReader のトリガーを押しても読取ができます。



② AsReader のトリガーを押している間、LED/レーザーが照射されますが、読取がなく一定時間経過すると停止します。また、「Start Scan」をタップした時も読取がなければ、LED/レーザーは一定時間経過後に停止します。1 回読取が成功すると、そのまま停止します。停止後は次のトリガーの押下や「Start Scan」のタップを待つ状態になります。連続読取を設定している場合は、トリガーを押している間、または、「Start Scan」をタップしてから「Stop Scan」をタップするまでの間、設定した時間間隔で連続して読取が実施されます。

※連続読取の設定方法は「3-5 1D・2D コード読取の各種設定」を参照してください。

③ 読取を行うと読み取った 1D、2D コードの一覧が画面に表示されます。また、読み取ったデータは CSV ファイルまたは Excel ファイルの形式で PC へ出力できます。※出力方法は「3-6 読み取ったデータの取出」を参照してください。

17:02

Barcode Scan

Barcode Type	Code	Count
Code 128	j	3
Code 39	b	2
UPC-A	c	3
UPC-E	E	3
GS1 DataBar	y	1
PDF-417	r	3
GS1-128	l	1

Export

Encoding: ASCII, UTF8, ShiftJS

Rescan Time: Not Used

Count: 7

Buttons: Start Scan, Stop Scan, Clear, Reset Scan

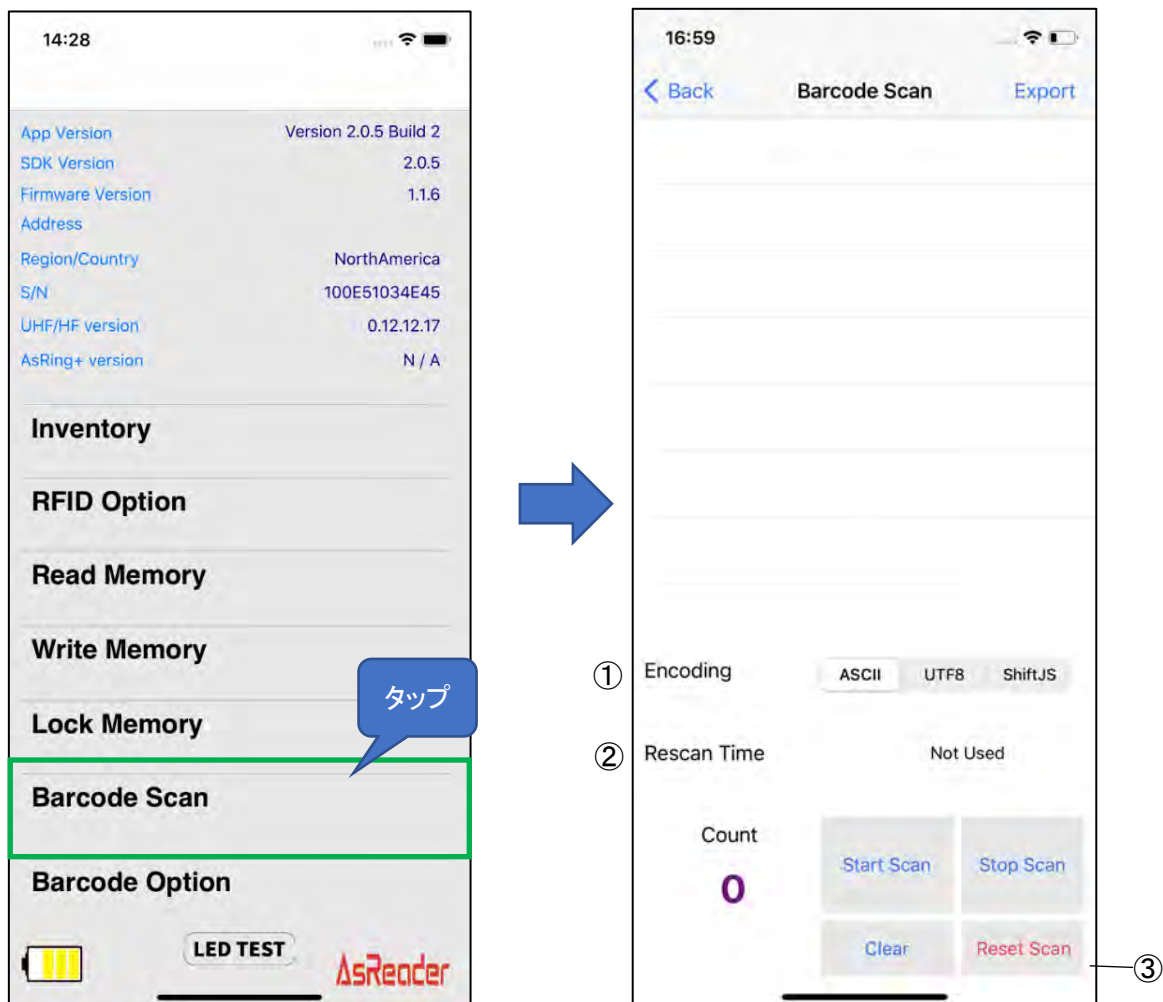
Annotations:

- 読み取ったデータの取出。(CSV または Excel)
- 各 1D、2D コードの読取回数
- 読み取った 1D、2D コード一覧表示
- 読み取った 1D・2D コードの種類表示
- モジュールメーカーバーコード識別子
- 読取開始ボタン
- 読取停止ボタン
- 読取開始ボタン(リカバリー用) 詳細については「3-5 1D・2D コード読取の各種設定」参照
- 読み取ったユニークなバーコード枚数 (同じバーコードを重複して読み取った場合にそれを 1 回とカウントした枚数)
- 読取一覧表示の消去

3-5 1D・2D コード読取の各種設定

3-5-1 Barcode Scan

トップ画面の「Barcode Scan」をタップすると、1D・2D コードの読取操作以外に、読取の条件を設定することができます。



① Encoding

エンコードのタイプを選択することができます。「ASCII」「UTF8」「Shift JIS」の3種類があります。

② Rescan Time

連続読取の設定を行うことができます。再読取までの時間を指定することができます。「Not Used」を選択した場合は連続読取は OFF になります。設定はアプリケーションに保存されます。

③ Reset Scan

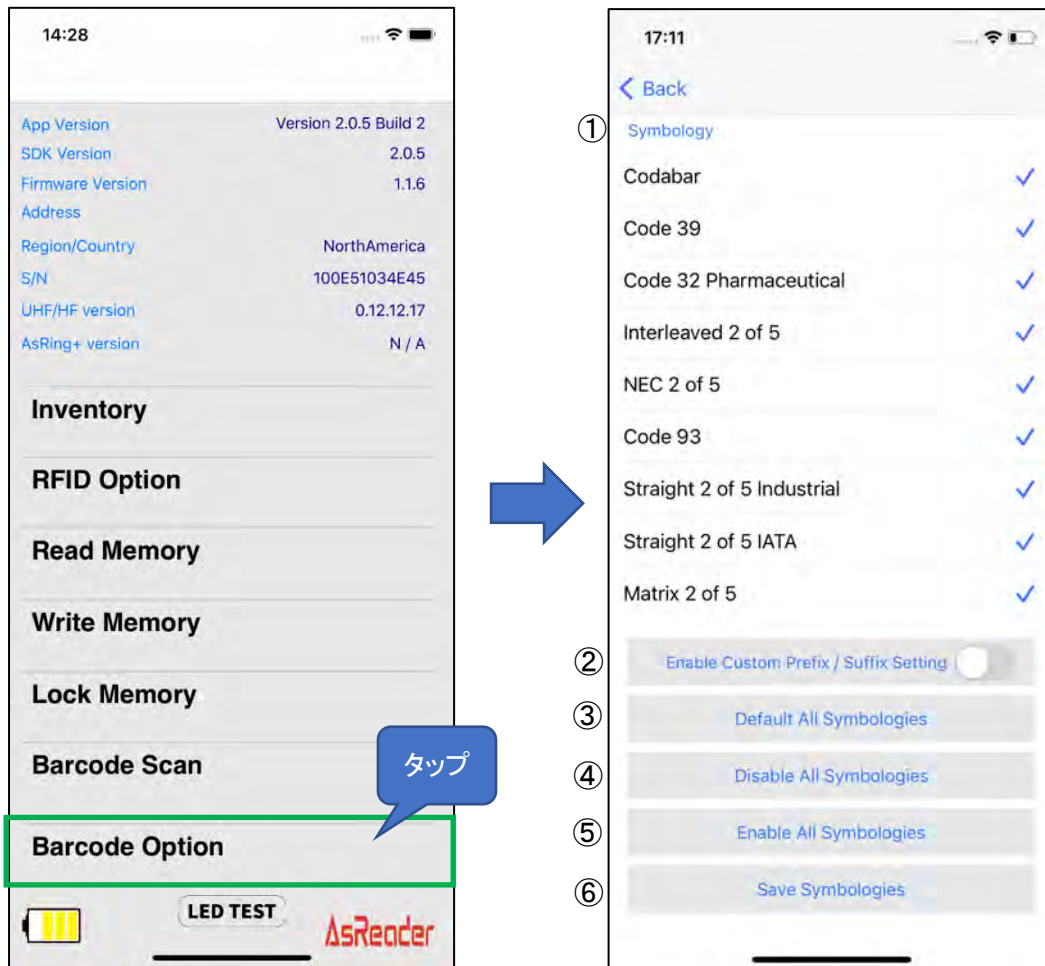
このボタンは、通常は使用しません。バーコード設定の誤りにより読取ができなくなった場合、このボタンをタップすることで強制的に照明やレーザーを照射させ、バーコード設定マニュアルの「Activate Defaults」バーコードをスキャンすることで、読取機能を回復させることができます。

※バーコード設定マニュアルは下記リンクからダウンロードできます。

<https://asreader.jp/downloads/asr-l251g/>

3-5-2 Barcode Option

左下の画面の「Barcode Option」をタップすると、読取可能なバーコードの種類を選択することができます。



① Symbology

読取可能にしたいバーコードの種類をタップして選択します。

② Enable Custom Prefix / Suffix Setting

Prefix / Suffix の設定を ON / OFF できます。ON にする場合、ユーザーが Prefix / Suffix を設定できます。OFF にする場合、Prefix / Suffix を設定できなくなります。

注意: OFF の状態で「工場出荷時に戻す」コードをスキャンした場合、改めて Barcode Scan 画面を開かないと読み取ったバーコードが表示されません。ON の状態で「工場出荷時に戻す」をスキャンした場合、Prefix / Suffix を設定すると、読み取ったバーコードデータが表示されます。

③ Default All Symbologies

読取可能なバーコードの選択をデフォルト設定に戻します。

④ Disable All Symbologies

①の「Symbology」にある全種類のバーコードを読取不可にします。

⑤ Enable All Symbologies

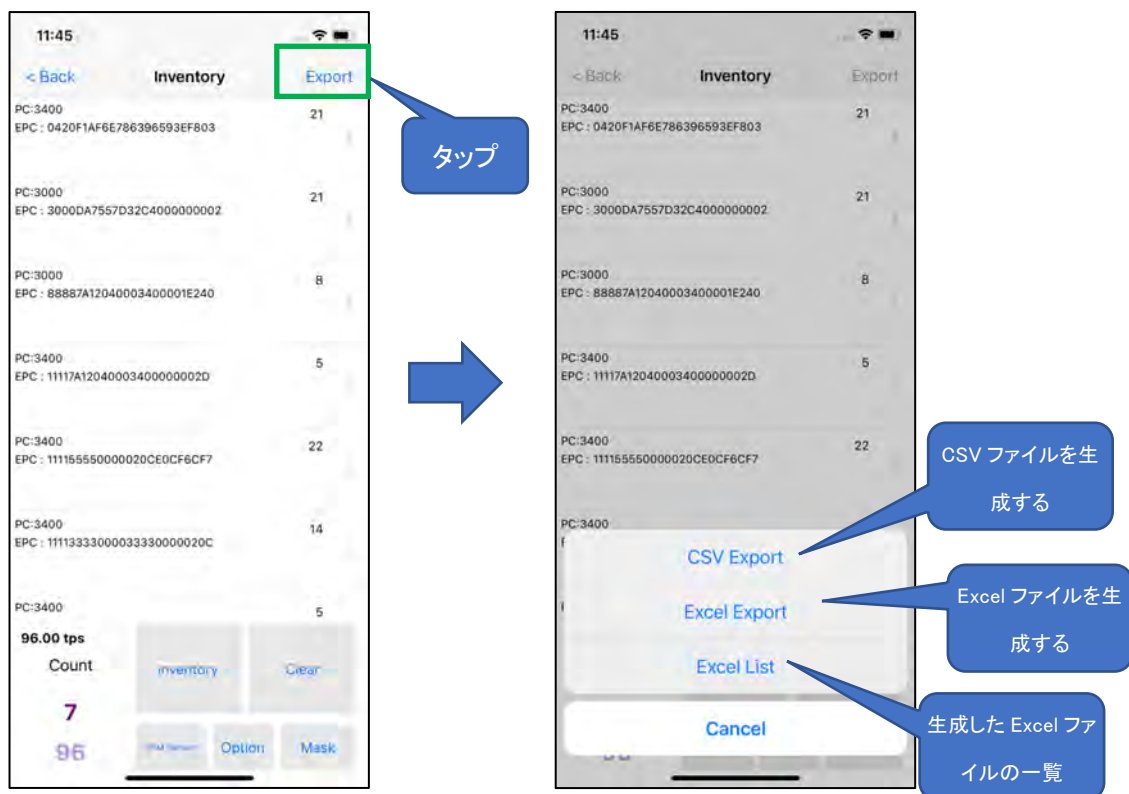
①の「Symbology」にある全種類のバーコードを読取可能にします。

⑥ Save Symbologies

上記①③④⑤の設定を行ってからこの⑥をタップしてください。選択済みのバーコードの種類を保存します。設定はアプリケーションに保存されます。

3-6 読み取ったデータの取出

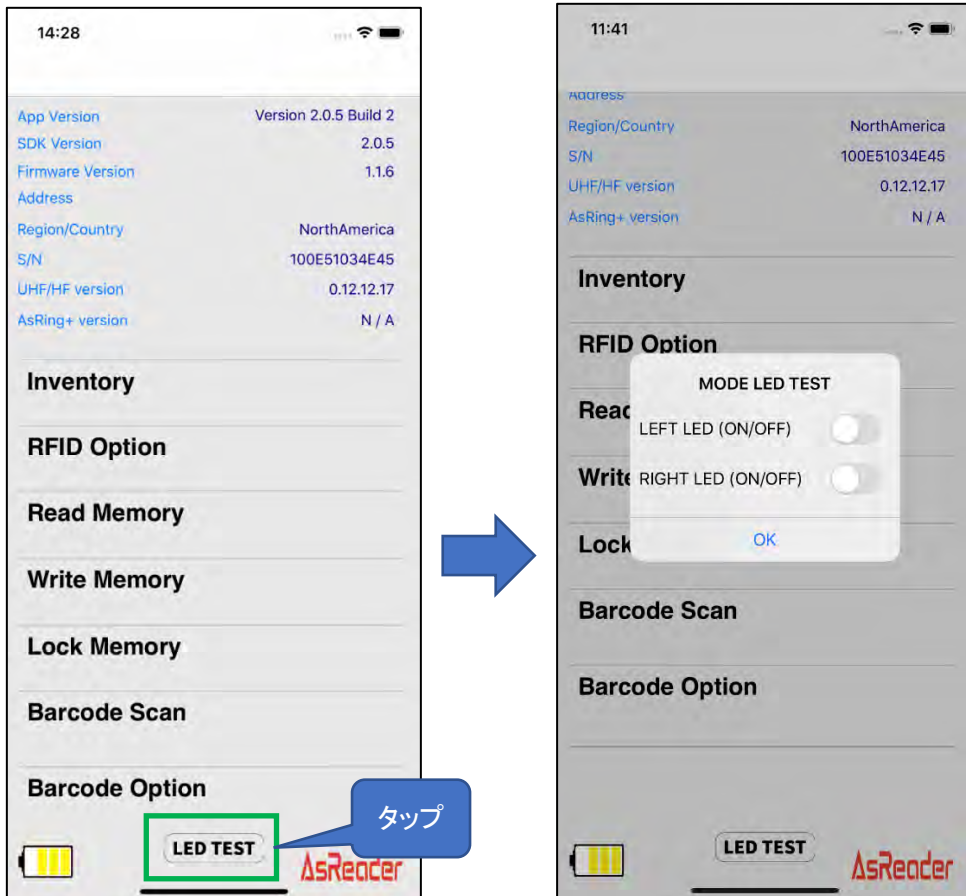
1D・2D コードや RF タグの読み取ったデータは CSV ファイルか Excel ファイルとしてアプリケーションに保存することができ、iTunes を通じて取り出すことができます。下記イラストは RF タグの画面を例にしています。1D・2D コードも同じ手順になります。



- ① インベントリ画面右上の「Export」をタップします。
- ② 取り出すファイルの種類を選択します。CSV ファイルの場合は「CSV Export」をタップし、Excel ファイルの場合は「Excel Export」をタップします。そうすることによってファイルがアプリケーションに保存されます。「Excel List」をタップすると、アプリケーションに保存された Excel ファイルを確認することができます。
- ③ スマートデバイスを PC に接続して、iTunes を立ち上げます。iTunes よりアプリケーションに保存されたデータファイルを取り出します。

3-7 モードインジケータテストボタン

左下の画面の「LED TEST」をタップすると、AsReader のモードインジケータの動作を確認することができます。「LEFT LED」を ON にすれば、左側のモードインジケータが点灯し、「RIGHT LED」を ON にすれば、右側のモードインジケータが点灯します。



ASR-L251G Demo App

操作説明書

2022 年 2 月作成

株式会社アスタリスク

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-6-16 新大阪大日ビル 201